

提供：日本IBM

ベテラン社員の「匠の技」を「財産」として継承 AIで広がるナレッジの 有効活用とその効果とは

社内の非構造化データをテキスト解析技術によって構造化し、ナレッジ（知識・知見）として有効活用する動きが広がっている。例えば、大手鉄鋼メーカーのJFEスチール。同社は、製鉄設備のメンテナンス業務にAI（人工知能）手法を導入した制御故障復旧支援システムを構築。作業日報や故障報告書、作業マニュアルなどの膨大な文書情報をAIで解析し、保守・保全ノウハウをナレッジとして活用。経験の浅い従業員でもトラブル時の的確かつ迅速なアクションが行えるようにした。これは、高度な保守・保全のノウハウを持つ

「ベテラン」依存からの脱却で、製造業に限らず、技術継承や若手育成など多くの日本企業が抱えている課題でもある。では、同社が構築した故障復旧支援システムとはどのようなものか、またそれを支えるAIとは。

JFEスチールが構築した故障復旧支援システムとそれを支えるAIとは？

次ページを読む >

※日経IDでのログインが必要です。

免責 個人情報 著作権

[PR] 企画・制作：日本経済新聞社 デジタル事業 メディアビジネスユニット

Nikkei Inc. No reproduction without permission.